

(様式第 11 号)

中間評価結果報告書

令和 7 年 9 月 11 日

衛生研究所長 殿

茨城県衛生研究所評価委員会

委員長 木村 博一

(押印又は自署)

調査研究課題	茨城県内におけるリケッチア保有マダニの浸潤状況の解明
--------	----------------------------

評価項目	評 価	意 見	備考
①必要性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	リケッチア保有マダニによる感染症の未然防止、および早期診断、早期治療の重要性は更に増しており、リケッチア保有マダニの浸潤状況の解明は対策を検討するために重要である。	
②進捗状況	5、5、5、5、 3、5、5 平均評価点 4.7	県内の植生マダニの種類とリケッチアの調査実績を基に、調査地点増加し、分布、季節変化、マダニとリケッチアの関係の知見が蓄積されてきている。	
③計画の妥当性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	リケッチアによる日本紅斑熱発生地域の拡大と、野生動物の移動に伴うマダニの移動の関係を調査する内容は適正と考える。	
④目標の達成及び活用可能性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	目標は達成できると判断する。 また、県内の発生地域拡大の要因と考えられる野生動物の調査結果の活用が期待される。	
⑤総合評価	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	マダニの種別に種々の病原リケッチア保有状況を明らかにしていることを高く評価したい。今後、ダニの生息域、種別（経卵感染の有無を含めた）ならびにリケッチア感染症の疫学が明らかになることを期待したい。 また、県民向けの成果の活用が期待される。	
⑥継続実施の評価 A：実施相当 B：計画を見直し 実施相当 C：実施不可相当	A：7名 B：0名 C：0名 最終評価 A B C	評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)	

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好